

令和6年11月22日

会 員 各 位

生物化学分析部門

部門長 五十嵐 麻衣

生物化学分析部門研修会のお知らせ

拝啓

時下、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は技師会活動にご理解ならびにご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。生物化学分析部門では下記のとおり研修会を開催いたします。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

日 時 : 令和6年11月30日(土) 14:00~16:30

会 場 : 福井県立病院 **5階 中会議室** ~~3階 多目的室2~~

① 演 題 : 乱用薬物検査ハンズオンセミナー

講 師 : 荒木 宏治(株式会社バイオデザイン 代表取締役社長)

【要旨】近年、大学での大麻使用や医薬品のオーバードーズなど若年層での薬物乱用が大きな社会問題となっています。このような環境の中、医療機関においても意識障害の原因究明、薬物使用の確認、診断書のエビデンスとして乱用薬物簡易検査を実施する施設が増えています。今回は、乱用薬物検査キットを実際に触っていただきながら、検査の意義、簡易検査の特長、違法薬物の環境などについて説明いたします。また、厚生労働省から発表があった、今年12月から施行が決定した「大麻の施用罪」についても簡単に説明いたします。

② 演 題 : TDMの基礎と測定上の注意点

講 師 : 島田 愛(積水メディカル株式会社 学術企画グループ)

【要旨】治療薬物モニタリング(Therapeutic Drug Monitoring; TDM)は、血中薬物濃度を指標として、治療効果や副作用に関連する因子をモニタリングしながら患者様に個別化した薬物投与を行うことを目的としています。一般的に医薬品の効果が得られる濃度は副作用が生じる濃度よりも低く、その間隔が広いほど安全性が高く、狭いほど安全性が低くなると言われています。

一方、患者様の体内動態は、性別や年齢、体重の他、併用薬や疾患の有無さらには遺伝的な要因で大きな個人差が見られます。TDMは安全性が低い医薬品が投与される患者様において、適切な薬物治療を管理するために行われています。しかし、血中薬物濃度測定は、日常の業務における一般的な血液検査と異なり、常に値の変動を伴います。また、薬剤部で測定される場合もあるため、不慣れな方も多くいらっしゃるかと思います。

今回、TDMに関連する基礎知識の復習と測定上の注意点を中心にお話させていただきます。

日本臨床検査技師会の規定により、①日臨技+福臨技 0円 ②非会員 3000円となりました

【問合せ先】 市立敦賀病院 検査室 東 正浩 TEL 0770-22-3611(内線4240)

【生涯教育】 基礎-20点